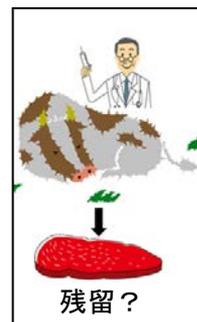


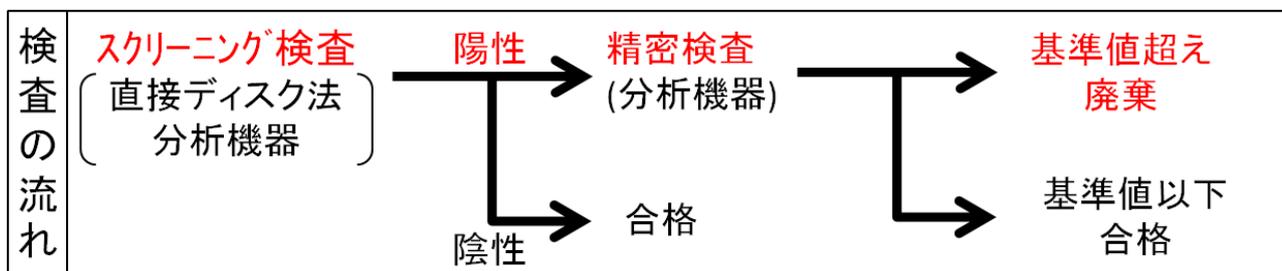
牛肉・豚肉の残留抗菌性物質検査



抗生物質など動物用医薬品による治療を受けた家畜が食肉市場へ出荷されることがありますが、心配なのがお肉への医薬品の残留です。そこで当検査所では、治療歴のある家畜などを対象に動物用医薬品が残留していないかを検査しています。

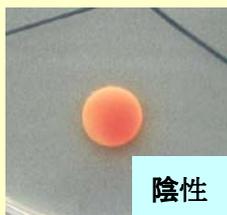
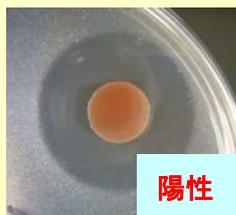
検査は下図のように、まず腎臓を使ってスクリーニング検査を行い、陽性の場合、腎臓と筋肉について分析機器等を用いてさらに詳しく検査し、何の医薬品がどのぐらい含まれているかを調べます。

動物用医薬品等が食品衛生法の基準を超えて食肉に残留している場合は、廃棄処分となります。平成27年度は牛1頭、豚1頭が廃棄処分になりました。結果は下の表をご覧ください。



直接ディスク法

ろ紙に腎臓の液を含ませ、細菌を混ぜた培地上に一晩置きます。残留医薬品により細菌の増殖が抑制され、周囲が抜けると陽性です。



分析機器(高速液体クロマトグラフ質量分析計)

残留物質の種類や量を調べるのに使います。極微量な残留物質を検出できます。



平成23年度～平成27年度の残留抗菌性物質検査結果

		H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
牛	検査頭数※	417	409	419	678	843
	陽性頭数※	9	13	7	18	24
	枝肉廃棄頭数	1	1	2	0	1
豚	検査頭数※	517	523	413	462	393
	陽性頭数※	21	30	9	3	9
	枝肉廃棄頭数	0	1	0	0	1

※検査頭数および陽性頭数はスクリーニング検査による頭数